

令和6年度 第3回 早島支援学校 学校運営協議会【記録】

1 日時 令和7年2月5日(水) 13:30~15:30

2 会場 岡山県立早島支援学校 大会議室

3 参加者 ・学校運営協議会委員10名

・学校(事務部長、副校長、各部教頭、主幹教諭、進路指導主事、交流ボランティアチーフ、指導教諭)14名

4 内容

(1) 開会行事

①開会挨拶

(校長) 高等部卒業式まであと1か月。社会に受け入れられ、一人一人が豊かに生活を送ってほしい。今年度は、DXハイスクール事業に取り組んだ。実践発表会には、全国から参加していただいた。ICT機器を通して、子どもたちの可能性を最大限活かせるようにしたい。

②日程説明

(2) 説明・協議

○重点協議事項「地域に開かれた学校づくり」に関する取り組みについて

・令和6年度の取り組み(要項資料P2参照)

・質問・ご意見

(谷本様)

・進路について語る会等保護者の参加は?→保護者の参加はない。

・リモートワーク就労希望の生徒はどのくらいいる?→現在は肢体不自由部3年性に1名、病弱部1年生に1名。そのほかの生徒には、働き方の一環として体験学習をしてきた。

・学校間交流が、毎年進化していて楽しみ。引き続き取り組んでください。

○来年度の学校経営計画について(要項資料P3、4参照)

ポイント

●内外の環境分析

(学校)

・「児童生徒は素直で明るく人のかかわりに興味がある半面、病気や障害による生活経験の不足からやや受け身な面がある。」←分掌チーフ会や分掌チーフの代表者の集まりである特別支援教育推進委員会で、内外の環境分析をしたときに出てきた特徴。

・「I類型児童生徒の集団での学びの場が不足している」→他校とも交流していきたい。

・「DXハイスクールの取組を通して、リモートワークを想定した職業指導、アバターロボットを使ったコミュニケーション指導、入出力支援装置等を使った学習指導や余暇指導についての指導体制や支援の方法が蓄積されつつある。」を追加

●具体的な学校経営目標・計画

1 子どもの豊かな学びを支える専門性・授業力の向上

(1) 主体的な学びを実現する教育活動の推進

・ICTや入出力支援装置等の活用の推進

・小・中・高及び卒業後を見据えたキャリア発達を促す指導支援と進路指導の充実を図る

2 子どもの安心安全を支える専門性・システムの充実

(1) 安心安全な医療的ケアの実施

・今年度、一部児童生徒の医療的ケアを教室でできるようにした。来年度はそれを増やすとともに、保護者負担の軽減ができるようにする。

3 地域とともにある開かれた学校づくりとセンター的機能の充実

(1) 地域と連携した教育活動の充実

・オンラインでの校外学習や地域学習ができたらい。万博をオンラインで見せたい。方法を模索中。

(2) 交流及び共同学習の充実

・学校間交流は、直接交流ができるように計画中。

・高等部は、DX ハイスクール事業で県内外とつながった。このご縁を大切に、引き続き交流を続けたい。

4 働きがいのある職場づくりの推進

(1) 働き方改革の推進

・生成 AI の活用等を推進して業務の効率化を図りたい。

質問ご意見

(三好様) 先日デジタルフェスにも参加した。リモートワークを希望する生徒さんの発表に「自分の弱みがわかった」というのが出ていた。主体的な生徒の育成の実現の一つのポイントではないか。病気を抱える児童生徒にとっては、自己理解が重要で、その取り組みをしてもらえてありがたい。

(谷本様) 働き方改革の中の生成 AI に活用について、具体的には？

(校長) 具体はこれから。現在、担任が学習の記録を毎日とっているが、それにかかなりの時間を要している。例えば、音声で話し言葉で入力したら、書き言葉で直して記録されるようなことはできないか。あるいは、授業案や評価の案の叩き台ができないか。どのようなことができるのかは、未知数。

(谷本様) 勤務の管理はどうか？医療の現場では、看護師の勤務表を作るのに時間がかかっている。本来の教員の業務以外の部分を AI がしてくれたら、本来の業務にもっと時間を使えるのでは。毎日の日誌とか。

(校長) どういったことができるのかを探るところから始めたい。教員には、AI 等は教育に馴染まないのではないか、という思いも強いので、そこを変えていけたらと考える。中学校はどうか？

(田野様) 教員は、生成 AI を使っている。県が、生徒が生成 AI を使うモデル校を作るという話もある。例えば調べ学習で、尋ねるとヒントが出てくる。それはやってみようと思っている。変なことを聞くと、それ以上進めないことになっている。子どもに使わせることは、今のところ想定していない。

○グループ協議記録は別紙

○グループ協議発表

・安全班

避難訓練を保護者が知る機会がない。そのためリアルな訓練ができないかという話題になった。うまくいかないことの発見も含めて、保護者参加型の訓練ができないか。もっと実際に想定した訓練になると、学校と病院、学校と行政だけでなく、三者が一緒にできるのではないか。災害時に役立つ知識も、具体的に共有することも大切。教員と保護者と地域が連携してやりたい。

・進路班

生活介護事業所を中心とした医ケア対応が可能な事業所が不足している。より保護者のニーズに合う

ように、お互いに知れるように交流会を設定する。

就労先の開拓をしたい。リモートワークやICTを活用する。学校の取り組みを就労移行支援事業所に伝える。リモートワークは、大企業が多いので、大企業と連携する。大企業と人材の情報提供をしてもらう。

DXの取り組みで、テレロボを使うことで子どもの主体性を引き出したので、テレロボを活用できる交流の場の情報提供をしてもらう。

・地域交流・地域貢献班

学校間交流では、来年度は早島中学校の美術部が来校し、直接交流をする。職場体験の受け入れもできそうだが、R7年度は支援学校が授業日ではないため難しい。社会福祉協議会は職場体験の受け入れをするので、令和8年度の職場体験に向けた参考にする。

ボランティアは、社会福祉協議会でボランティア募集をしているので、チラシを作って持っていく。

ご意見ご感想

(谷本様) 参観日となると、次年度の計画は？→今、立てている。平日で考えている。

(3) 各委員から

(野中様) 先生方はお忙しい中、本当に頑張っている。先生方の労働環境について色々と言われて、時間のない中本当に頑張っている。子どもたちは、病気や障害があることによる生活体験の少なさがある。それは支援学校以外の子どもたちでも体験格差があると言われていた。社会福祉協議会は、つなぐということをして仕事としているので、なんでも聞いていただければと思っている。

(三好様) 我々の交流会や講演会に足を運んでいただきありがとうございます。病弱時・病気療養児と日々関わっている。最初から関わっている子は、成人になっている。先輩が後輩に語る会があるが、地域に暮らす子どもたちが先輩の様子を聞くことで、将来をイメージしやすくしている。そういう活動を、続けてほしい。

(名倉様) 先生方は授業を進めながら、いろんなイベントに取り組まれていてすごい。私は、就労支援をしている。先生の取り組みの発表の中で、生徒が自分のことがわかったことが大きいというのがあったが、職場において自分のできることとできないことを知っておくことがとても大切。難病のある方で、ついつい「大丈夫」といってしまい身体的なフォローを頼めなくて退職してしまったことがあった。無事に再就職は果たすことができたが、何ができて、何を配慮して欲しいのかを自分の言葉で伝えることができるように練習した。学校では、これだけのことを経験する場を設けているので、こちらで情報提供できることがあれば、協力する。今後ともよろしくお願いします。

(平岡様) 社会福祉法人で、相談支援専門員としてサービスや制度を提案している仕事をしている。その中で、生活会議事業所が少ない、とか医療的ケアや強度行動障害の方の事業所が少ないなどの声もある。歩いたり食事をしたりができるが、ヘルパーさんを殴ったりしてしまう子がいたが、よし悪しがわからず、警察に被害届を出しても善悪の判断ができないということになってしまった。こういった方に対して何かしらの支援ができたのではないかと、思う。保護者の方によっても情報格差や保護者の方の能力差もあるので、全ての方が参加できるかも課題ではあるが、そういう場を作っていけたらと思う。

(田野様) 学校間交流で、美術部と間接交流していた。直接交流で課題になるのは、時間の設定かな、と思っている。平日でやるのが、生徒や教員の負担も少ないかな、と思っている。職場体験の受け入れ先に、ぜひ。

(花元様) 保護者という立場から、うちの学校は、すごく子どものことを褒めてくれる。うちの子は、騒いだりするんだけど、肯定してくれる。そのマインドを自分でも実践できるようになりたいな、と思

う。支援学校以外の子にイライラしたときに、なんでこうしてくれないんだ、とイライラしたときに、支援学校の先生のマインドで接してみたら、穏やかに過ごせた。先生と生徒が一对一で関わっていく中で、人同士のつながりがある中で、AIが必要なのかな、とっていた。私は、大学で働いているが、精神疾患を抱えている人が多い。カウンセリングの予約がなかなか取れない中で、チャット GPT に悩みを聞いてもらっている人がいる。人ではないからこそ、言いにくいことも言えて救われている人もいた。必要ないと思っていた場所でも、AIが必要なところがあるんだと感じた。

(谷本様) 今までやってきたことを、さらに広げて発展させるとか、何か新しいことを始めるとか、できることから始められたら。当院としても、できることは協力する。

(中島様) 市役所の中でも生成 AI の専門部署ができています。災害に関しては、倉敷市署が被災しているの、情報が集まっている。何かあれば即時対応できるようになっている。山陽ハイツが防災公園になっている。地形がここと似ているので、参考になることがあるのではないかと。早島町にしてみれば、この学校が一つの拠点になるので、一つの視点として良いのではないかと。

(4) 閉会行事

(校長) 来年度の委員は、今年度の方々には引き続きお願いしたい。来年度は、お一人新たにお迎えしようと思っている。